

推薦を受けるのは難しいかもしれないと不安が尽きませんでした。水泳の練習は20年以上やってきましたし、国内の大会では親が帯同するのでそれほど不安はありませんでしたが、今回はコーチ、スタッフとの遠征で、親は現地でも遠くから見守るだけでした。

生活面において、課題がいっぱいありました。その一つずつが、改めてこんな事もできないんやと思いらされました。返事も上手く言えない、困った時に教えてと言えない、自分をわかってもらえない状況をどう表現するか等、試行錯誤を重ねていました。

カードや写真を用意して、荷物もここにあるよとか、毎日する事を簡単な言葉で書いたりしました。生活面ではユニホームなどの洗濯は必須でしたので、いかに要領良く手洗いでできるか教え、タオルドライの仕方を何度も練習しました。それでも、自分から上手く話せない実幸には、団体行動や慣れないコーチ陣との会話とかなりの負担があったと思います。生まれつき筋力が弱く身体をきたえるために始めた水泳で、身体も心も不安にさせているのではと心配はつきません。

バンコクでは、プール会場で姿を見ることができましたが、残念ながら直接会うことはできませんでした。ドクターの帯同はありましたので、身体のケアはお願いしていましたが、普段と違う環境でどうしているかなど、確認することもできません。唯一LINE電話が掛かって、声だけは聞く事ができ少しホッとしました。

大会では日本代表の一員として日の丸のついた水着、ユニホーム姿にグッとくるものがありました。そして37歳まで水泳を続けたこと、「よく頑張ったね」と褒めてあげたい気持ちでいっぱいです。実幸にはこれからも、元気に楽しく、そして長く水泳を続けてもらいたいと望んでいます。



## 9月度会員学習会を開催しました

港育成園支部 松村 ユカ

9月の学習会は、『障がいのある人の暮らしのメニュー』と題して、NPO法人グローバルハッピー理事長 黒川智子さんをお迎えして開催しました。開始前に配布された資料を見ると、表紙に何種類もの事業所を展開されていたので、どんな実業家の方だろうと…あれこれ思いを巡らせていましたが、エネルギーが溢れた小柄でキュートな方でした。



最初の自己紹介では、衝動的な面があり、なりふり構わず突っ走ってしまう性格と、さらりとおっしゃっていましたが、その性格を活かして事業を展開されているのだなあと実感しました。

黒川さんの息子さんが重度の自閉症と3歳の時に発覚し、この先どう生活すればよいのか?そのためには仕事を探さねば…。障がいのある子を抱えてできる仕事…。そうだ、家賃収入だ!と、すぐに「不動産賃貸業のみりカンパニー」を設立されました。考えた先が不動産業とは、さすがです。やはりこの方はタダ者ではないなと感じつつ、次の話にワクワク感が止まりませんでした。

息子さんが通われていた幼稚園の年中さんの時、在住していた市の障がい福祉部門が主催の勉強会で次のように言われたそうです。①皆さまの子どもさんは学校を卒業したらグループホームに入ります。②日中は作業所か生活介護です。③障害年金と生活保護で暮らせます。④今のところ当該市ではグループホームの空きは無いです。と、5歳でお子さんたちの人生が決められたような話ですから、その場にいたお母さんの中には泣き出す人もいたそうです。大変ショックを受けた黒木さんは早速、福祉について調べ始めたそうです。まずはグループホームを設立し…多々挫折もありながら、新たに現在のグローバルハッピーを開設し、